

2022年度保護司の意識に関するアンケート結果のあらまし

2 再犯防止「2022滋賀・更生保護フォローアップ事業」について

(1)保護観察終了後に相談を受けた経験

「担当終了後に元対象者等の相談に乗ったことがありますか？」については、330名中72名(22%)が「ある」と回答した。39名の保護司が1人、18名の保護司が2人、9名の保護司が3人、6名の保護司が4人以上の相談に対応したと回答した。

(2)フォローアップ事業に対する考え

「担当終了後も担当していた人達の相談に乗ることについて、自分の考えに近いものを3つ選び順位をつけてください。」については、「再犯防止に貢献できる」が912点(24.0%)で、1位選択者は88名と突出して多く、次いで「社会的に意義がある」、「困っている人の役に立つ」を選択した保護司が多かった。

(3)フォローアップ事業に期待する支援

「今後、元対象者等から相談があった場合、どのような支援があればよいか？自分の考えに近いものを3つ選び順位をつけてください。」については、「保護観察所の相談体制」が788点(20.8%)で66名の保護司が1位に選択した。さらに、「保護司個人ではなく、保護司会が相談に対応する仕組み」と「相談対応することの法的裏付け」を選択した保護司が多かった。

(図4参照)

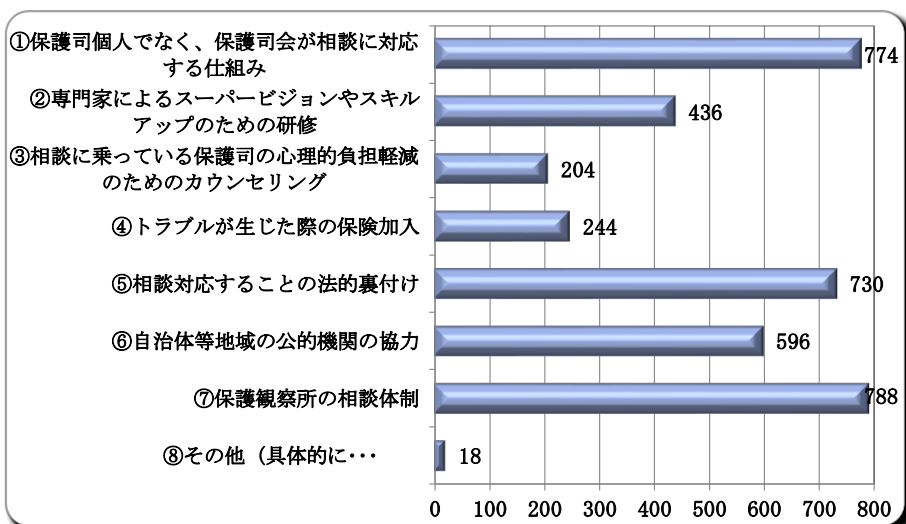


図4 「フォローアップ事業」に対し期待する支援(3つ選び順位づけ)

「息の長い支援」の促進に留まらず、「更生保護が抱える課題の可視化」や、更生保護への自治体の理解や協力を得ること」を期待し、さらには、新たに開始される「フォローアップ事業」がよりよいものになるよう、保護司の思いを集約し、更生保護活動のより一層の充実発展に資することを目的とする。

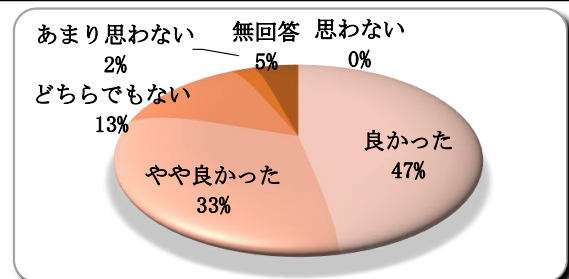


図1 「息の長い支援事業」への参加の感想

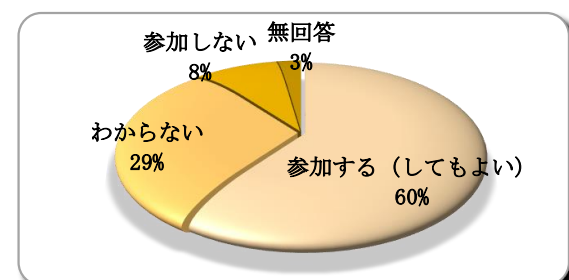


図2 事業への参加意思(モデル地区以外)

(3)「息の長い支援」についての考え

「更生保護団体による“息の長い支援”についての自分の考えに近いものを3つ選び順位をつけてください。」については、項目⑨の「再犯防止に貢献できる」が740点 ※(19.3%)で最も点数が高く、かつ68名の保護司が1位に選択した。さらには項目①の「社会的に意義がある」が674点(17.6%)で78名と最も多くの保護司が1位に選択した。

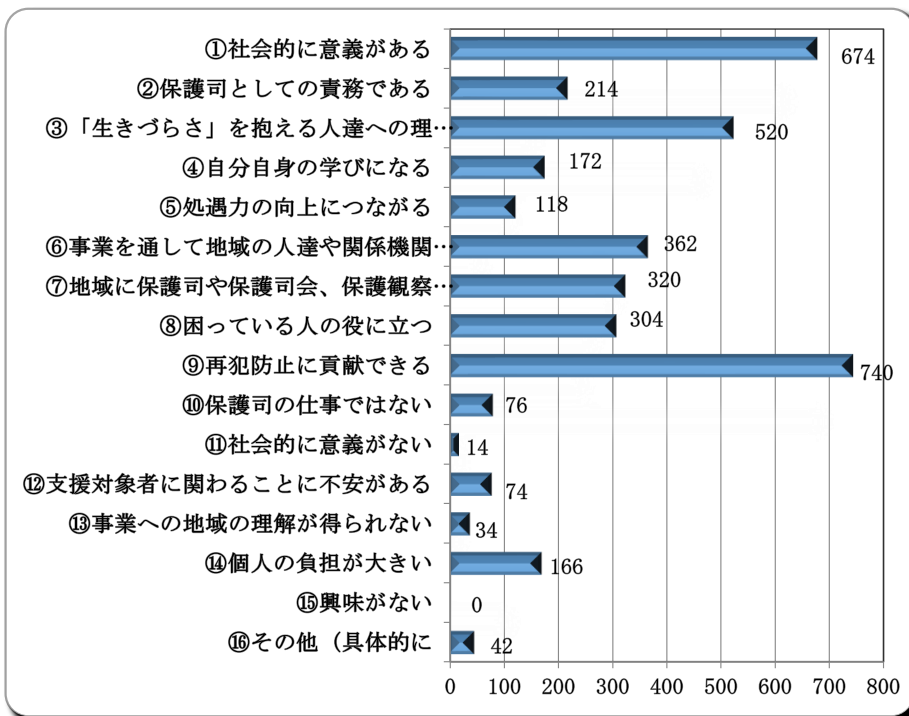


図3 「息の長い支援」についての考え(3つ選び順位づけ)

令和4年10月1日現在の滋賀県内保護司全員(486名)に調査を依頼。休眠預金を活用した「息の長い支援」基盤整備事業に参加している保護区(大津、守山、近江八幡、彦根、高島、以下「モデル地区」と記載)の保護司240名のうち161名から、その他の保護区の保護司246名のうち169名から回答を得た。

1 更生保護団体による「息の長い支援」について

(1)「息の長い支援事業」への参加の感想

モデル地区内で「更生保護団体による息の長い支援に参加したことがありますか？」については161名中45名の28%であり、本事業に参加した感想については、「良かった」が21名(47%)、「やや良かった」が15名(33%)であり、事業に参加した保護司のうち80%が肯定的に捉えていることが分かった。(図1参照)

(2)モデル地区以外での「息の長い支援事業」への参加の意思

モデル地区以外の保護司169名に対し、所属する保護区で同じような事業が始まった場合参加しますか？については、「参加したい」が102名(60%)、「わからない」が49名(29%)、「参加しない」が14名(8%)であった。(図2参照)

項目⑩から⑮の否定的な項目の選択は、全体でも364点(9.5%)であり、1位に選択した保護司は33名であった。(図3参照)

(※ 1位6点、2位4点、3位2点として集計)

(4)「息の長い支援」実施の支障

「更生保護団体が息の長い支援を実施するに際し、支障となることについて、自分の考えに近いものを3つ選び順位をつけてください。」については、「地域社会の理解と協力」が18.5%次いで「支援対象者のニーズにマッチした支援を、準備できるかどうか」、さらには「個人の負担」と続き、実施に向けた課題が明らかになった。



調査へのご協力
ありがとうございました。



◇ 更生保護団体による「息の長い支援」事業に関して

- ＊ 「息の長い支援」事業モデル地区の保護司161名中45名(28%)の参加があり、そのうちの80%が「参加して良かった・やや良かった」と肯定的に捉えていた。事業に参加していない保護司についても、ほぼ半数以上が「参加したい・参加する(してもよい)」と前向きに捉えていることが分かった。
- ＊ 事業に対する考えについては「再犯防止に貢献できる」と「社会的に意義がある」を選択する保護司がもっとも多かった。
- ＊ 否定的な項目の選択は、9.5%に留まった。
- ＊ 事業実施に際する支障については、「地域社会の理解と協力」「支援対象者のニーズにマッチした支援を準備できるか」「個人の負担」の項目の選択が多かった。

◇ 再犯防止「2022滋賀・更生保護フォローアップ」事業に関して

- ＊ 元対象者等の相談に乗ったことのある保護司は72名(22%)にのぼった。
- ＊ 事業に対する考えは、「再犯防止に貢献できる」「社会的に意義がある」「困っている人の役に立つ」等、肯定的な考えが多くを占めた。
- ＊ 一方で、フォローアップ事業実施にあたっては「保護観察所の相談体制」や「保護司会が相談に対応する仕組み」「法的裏付け」の支援を求める保護司が多かった。
- ＊ 「その他欄」においても「保護司の活動範囲を超えるものである」「保護司のボランティア的な活動に頼るのではなく体制を整えるべき」との意見等もいただいた。
- ＊ そういった課題を踏まえながらも「フォローアップを検討可」という保護司が115名(35%)も居られることは大変心強い。